「ＣＡＴＹ」の名前は、「ＣＡｍｐｕｓ」と「ｃｉＴＹ」からの造語で、地域と大学の相互理解、交流促進を目的として生まれました。「地域との共生　社会に学ぶ」を合いことばに、高等教育機関としての教育研究の成果を、地域に発信します。また学生が取材活動を通じて、読む・書く・話すといった能力を開発していくことも意図しています。
http://www.kokugakuin-jc.ac.jp

News CATY（ニュース キャティ）

２０１８年３月　第120号

発行／國學院大學 北海道短期大学部
滝川市文京町３－１－１
TEL0125-23-4111　FAX0125-23-5590
編集事務局長　藤本　愉

文学のススメ

國學院大學北海道短期大学部　副学長　平野泰樹

いつのころからか家庭から文学全集が姿を消し、多様化する大学から文学の研究や教育が姿を消し始めました。人間の本質を洞察し人生を考えさせる文学の非生産性が、社会に浸透する成果主義や娯楽の多様化によって排除されようとしているのでしょうか。

文学の衰退は、人間にも大きな影響を及ぼしているように思われます。自分を見つめ、他者を理解しようとする想いが希薄になれば、必然的に他者との関わりや他者への寛容さが希薄になります。非婚や離婚、ヘイトスピーチ、ストーカーやDV、そして歯止めのかからない児童虐待の要因ともなります。

私たちは、自分を取り巻く狭い環境の中で生きています。そこでの経験や体験、あるいは思考はおよそ限定されたものです。そこに安住すると「見たいものだけを見る」、「信じたいものだけを信じる」偏狭な人間になりかねません。文学、とりわけ小説は、様々な作家をとおして人間と社会を多様かつ豊かに描いています。偏狭で頑迷な自分の殻から誘い出してくれます。

一冊の本との出会いが、人生や生き方を変えることもあります。一冊の本に救われる人もいます。卒業生の皆さんには、ぜひとも文学にいそんでほしいと切に願う次第です。

2年間ありがとうございました

後悔のない2年間 経験を生かし社会へ

この2年間に後悔はない！と私は言い切ります。もちろん、正直なところ、2年生に上がる際に先輩が卒業することを悲しく思うあまり、学校に足が向かなかった時期があること、スペシャリストの多い我が國短の講師陣の講義に自分の理解が及ばなかったことなど、反省の気持ちはあります。

しかし、まだ学びたい気持ちを抑え、社会人として、働いている方々がたくさんいる中で、私がこの2年間を使って後悔が残っている、など言えるわけがありません。

国文学科の先生方にはたくさんの迷惑をかけてきました。ですから、無事に卒業を迎えることができるのも、先生方のご温情のおかげとしか言いようがありません。ありがとうございます。特にゼミから講義、サークル、日常までお世話になった月岡道晴教授には感謝してもしきれません。

また、國短の事務局の職員の方々、アルバイト先の野上菓子舗の社員の皆さん、学生生活を送る上で支えてくれた大家さんを中心に家主会の皆さん、私と少しでも関わりを持って仲良くしてくれた友人のみんな、ここ滝川に住んでいる市民の方々、そして何より私を短大に通わせてくれた母をはじめとする家族に、本当に感謝しています。

この2年間で学んだことを活かし、4月からは日本の伝統文化である着物を取り扱う販売員として頑張っていきます。

繰り返しますが、「後悔のない2年間」を送ることができました。本当にありがとうございました。2年間、楽しかった！

（国文学科2年／若宮葵）

挑戦し、体験し、成長を実感した滝川 両親に感謝し東京へ

入学することが決まった時は、「これから一人暮らしをしていけるのか」という不安な気持ちと、「北海道はどんなところなんだろう」という楽しみな気持ちが複雑にまざり合っていました。

大学の授業が始まってからの1か月間は、アパートの大家さんが食事のサポートをして下さり、大きな助けになったことを今でも思い出します。

私が國短に来て一番良かったと思うことは、人と違う経験が多くできたことです。

北海道滝川という寒くて雪の多い土地で、一人暮らしを経験したことはもちろんですが、授業では、稲作体験学習で実際に田んぼに足を踏み入れ、田植えや稲刈り、収穫祭・もちつきを体験したり、大学の実習園でジャガイモを育てたりしました。また自ら進んで、自然体験指導者という資格を取得したり、朝早く起きて農家の野菜の収穫のアルバイトをしたりしました。東京の大学に進学していたら、きっとできなかったであろう滝川ならではの体験、いろいろなことに興味を持ち挑戦することの大切さを知ることができた2年間でした。

國短での2年間が楽しく充実したものになったのは、北海道に送り出してくれた家族や親身になって相談に乗ってくれた先生方、いつもそばで支えてくれた友達や周りの人たちの助けがあったからこそだと思います。

編入後は実家から通学することができるので、両親に感謝の気持ちを伝えたいです。（幼児・児童教育学科児童教育コース2年／久野真由）

卒業生へのメッセージ

短期大学部の皆さん、ご卒業おめでとうございます。2年間の滝川生活はいかがでしたか。楽しかったことや大変だったこと、振り返ってみるとたくさんの思い出があるかと思います。

これから皆さんは編入学される方や就職される方など、新しい目標に向かってそれぞれの道を歩むことになるでしょう。その際、短期大学部で培った知識・技能・経験、そして仲間たちとの繋がりは大きな力となるはずです。

私は國學院大學へ編入しましたが、はじめは編入後の生活の変化に馴染むことが難しい日々が続きました。そんな時、支えになったのが短大の仲間でした。悩みや気になることなどを相談し、支え合えるのは、2年間ともに過ごした短大の仲間だからこそです。編入する方も、就職される方も、短大でできた仲間や先生、地域の方々との繋がりを、これからも大切にしてください。きっと皆さんの支えになるはずです。

学びと経験活かし 目標にまい進して

最後に、目標の話をしますと、ときどき、編入学や就職が決まって満足し、その先の目標を見つけられなくなってしまう人がいると聞きます。そうなってしまうと、最終的に自分の将来を見失うことになります。そこで皆さんには、この休みの間、どうして編入を選んだのか、どんな思いで就職を勝ち取ったのかをもう一度思い出してみてください。ゴールではなく、次のスタートラインに立ったという気持ちで、新たな目標へ走り出してください。

新たな道への不安はあるでしょうが、短大での学びと経験そして仲間を支えに、目標へ向けて邁進してください。（國學院大學文学部史学科3年／大井勇輝）

クラスメートと乗越えた1年間 社会人の自覚を胸に

私の専攻科福祉専攻の1年間は、これまでの中でとても有意義なものとなりました。

介護福祉士という専門職の資格取得を目指して進学しましたが、今年度から法改正があり、これまでは卒業と同時に取得できた資格が国家資格を受験し合格しなければならなくなったため、大変な毎日ではありました。でも、クラスメート全員が合格に向けて頑張っていたので私も頑張れました。

専攻科入学当初は、私自身社会性がなく、今思うとまだまだ子供で、学習の仕方や習慣もなく、どのように取り組んだらいいのか悩みましたが、クラスメートも同じだったのでみんなで協力し合い直していきました。分からないことを教え合い、時には一つの問題について悩んだりもしましたが、お互いに問題を出し合い一つ一つの知識を増やしていき、1月28日に国家試験を終えることが出来ました。

また、私を含めクラスメートの中で報告、連絡、相談の「ほうれんそう」が出来ていなく、先生達から指導が入ったりしました。出来なかったその時にはどうしたら良かったのか話し合いをしていくと、チームでの連携や自分から行動する、自分から発言するという力がつき、入学当初に比べると社会性が身についていたと、ありました。就職活動や行事が忙しく、みんな疲労の表情を浮かべている時期もありました。ですがそれも含めていい思い出です。

2年生のクラスは、みんな個性が強くて一人ひとりがとても面白い人たちばかりでした。

短大生としての2年間、この地でこの人たちと過ごせて本当に良かったと思います。仲良くしてくれた友達、先生方、そしてお世話になった地域の方々、本当にありがとうございました。（幼児・児童教育学科幼児保育コース2年／小畑誠也）

卒業間近のいま思います。

4月から私は介護の仕事ではなく、保育士として働くことになりますが、社会人としての自覚と専門職であるということを忘れずに、子どもたちだけではなく保護者からも信頼される存在になれるように日々勉強しながら、これからも頑張っていきたいと思います。そして18期生4人の仲間と過ごしたこの1年間は忘れません。（専攻科福祉専攻／藤原朱音）

素晴らしい仲間たちとの出会い 地域の方々にも感謝

國學院大學北海道短期大学部の幼児保育コースでの2年間は自分にとってとても貴重でためになりました。同じクラスの仲間や様々な分野においてのプロの先生方、またほかの学科の友達などに支えられ乗り越えることができ、とても充実した生活を送ることができました。

最初は男の友達がゼロの状態で入学したため、とても不安な気持ちでいっぱいでしたが、今では男友達も多く最初に抱えていた不安はもうすっかり消えてしまいました。

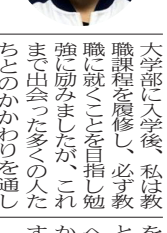
友達との距離が縮まり始めた宿泊研修、実際の現場に立つことに不安を感じていた保育実習、施設実習、大道具や台本など一から手掛けた楽しい発表会、各出し物の練習に励んだ挑んだクリスマス会など様々な行事に取り組んだこともとても鮮明に残っています。

また、部活動での思い出も自分にとってかけがえのないものになりました。なかなか良い結果は出せなかったものの、だからこそ学べたことや感じたことも多くあり、素晴らしい仲間と出会うきっかけにもなって本当に入ってよかったと思っています。

ですが楽しいことばかりではなく、テストやレポートに追われることもあり、卒業間近のいま思います。

4月から私は介護の仕事ではなく、保育士として働くことになりますが、社会人としての自覚と専門職であるということを忘れずに、子どもたちだけではなく保護者からも信頼される存在になれるように日々勉強しながら、これからも頑張っていきたいと思います。そして18期生4人の仲間と過ごしたこの1年間は忘れません。（専攻科福祉専攻／藤原朱音）

多くの出会いと支えに感謝 貴重な体験を財産に



私が2年間、北海道滝川市に住み、一番印象深く感じたのは「人から学ぶ」ということでした。この人というのは主に滝川市で出会った友人、短大の先生方、そして地域の方々のことです。

國學院大學北海道短期大学部に入学後、私は教職課程を履修し、必ず教職に就くことを目指し勉強に励ましたが、これまで出会った多くの人たちとのかかわりを通して、教職以外にも本当に自分が将来進みたいと思う選択肢を増やすことができました。

特に、短大内外での人とのコミュニケーションは、その人の考えや将来へのビジョン、また、いい意味での競争の楽しさを理解することができたということは、私の将来への選択肢を増やすきっかけとなったと思います。

もちろん短大の授業から学んだことも大きな動機となりましたが、やはり、友人や教授との「生の会話」を通して得た多様なものの考え方や多角的な視点の在り方を直に感じ、学べたことは、私にとって貴重で充実した経験でした。

このように感じる理由の一つはまさしく滝川市という限られたコミュニティの中でだからこそできる、唯一無二の貴重な体験であったことに他ならないと考えています。

4月から國學院大學文学部外国語文化学科に編入し、滝川市での生活で得た貴重な財産を大切にしながら、友人とともに新たなステージに踏み出します。

國學院大學での多くの人たちとの出会いを求め、更に自分を高め、将来に繋がるものを追究していきたいと思っています。

最後に、2年間の滝川市での生活の中で出会えた素敵な友人、自分が辛い時にいつも支えてくれた友人には、心から感謝しています。私にとってこれほどの「濃い友人関係」は國學院大學北海道短期大学部に来ないと育めなかったことでしょう。

また、これまで私が滝川市で何不自由なく生活でき、無事に國學院大學文学部外国語文化学科へ編入できたのは、友人、先生方、そして常に私の背中を押してくれた父と母であり、改めて深く感謝をしたいと思います。

今後は國學院大學生としてなお一層自分に誇りを持ちながら、これまで以上の学生生活の充実を目指し、両親への恩返しができるように日々精進していきたいと思います。ありがとう滝川！（総合教養学科2年／片岡拓真）

温かく美しい灯りに包まれる

紙袋ランターンフェス

2月17日に「第16回たきかわ紙袋ランターンフェスティバル」が開催された。滝川駅前から滝川市役所付近にかけて1万5千個ものランターンが並べられ、夕方の3時間だけ滝川市内がランターンの温かく美しい輝きに彩られた。

当日は、約1万5千人の来場者が訪れ、雪の降る中でのランターンフェスティバル開催となった。このランターンは、多くのボランティア団体や協力団体によって作られ、ランターンの模様も多種多様であり、子どもからお年寄りまで多くの方々が参加して作られた。

ランターンをただ見て回るのではなく「ランターンを探せ」や「フォトコンテスト」などのイベントも開催された。

また、フェスティバルが始まる前には、紙袋ランターン制作コーナーが、まちづくりセンター「みんくる」やレンタルスペース&カフェ「宙」に設けられていて、地域の方々がだれでも制作できるようになっていた。このほかに、作り方がホームページに掲載されていて、だれでも簡単に制作できるようになっていた。

このイベントも第16回目をむかえ、地域に密着したイベントとなっている。今後もより一層地域に浸透したイベントになるだろう。（総合教養学科1年／萱森唯人）

滝川市立図書館でサービス学ぶ

図書館司書科目「図書館制度・経営論」の授業の中で、2月14日滝川市立図書館を見学した。はじめに館長から図書館の概要について説明があり、その後館内をまわりながらそれぞれのコーナーで説明があった。説明の後、学生たちは市立図書館の図書館サービスについて、40分程館内を見て回わり、その活動状況について調査をしていた。

普段学生たちは授業で図書館サービスについて習って理解しているつもりでも、実際の現場で具体的にどのようなことが実践されているか見て、あらためて図書館サービスの重要性を理解したようだ。

受講生と短大生の作品が一堂に

「はる展」でピアノコンサートも

滝川市美術自然史館で「はる展」が2月17日から25日まで開催された。本学のオープンカレッジ受講生と短大生による絵画や書道などの作品が展示された。期間中にはイベントが2つ開催され、初日の17日は受講生と学生のピアノコンサート、24日には子供を対象としたワークショップ「染めを楽しむ」が行われた。

ピアノコンサートでは、少し緊張した面持ちで受講生や学生が演奏していたが、会場には軽やかなピアノ音色が響きわたっていた。

最終日には黒阪本学教授が出品された絵画一点一点を講評し、受講生たちは熱心に良い所や改善点などを聞いていた。

今年で15回を迎えた「はる展」は、地域に浸透している恒例の展覧会になっているようだ。（総合教養学科1年／木村晃貴）